

編集後記

20年前の夏、出張で地方の病院に赴任していた時に、直撃した台風の影響で山中の送電線が切断され、3～4日間、町全体が停電したことがありました。その際は給電車がすぐに手配され、病院の機能は最低限保たれましたが、日常生活の不便さは大変なもので、電力が復旧して部屋の明かりが点いた時は歓喜の声をあげた事を憶えています。この度の台風15号によって何週間もライフラインが切断された千葉県の被災者の方々の被害状況は、健康面ばかりでなく経済的にも想像を絶するものがあります。自治体や電力会社の対応の遅れを非難する声もありますが、今回の災害の規模が想定外だったということでしょう。防災意識は高まっているとは思われますが、最悪の状態の想定基準をさらに上げて、多角的に対策を練り直す必要があるのでしょうか。

今月の「誌上ギャラリー」は有馬先生からいただきました“仙巖園”です。園内の高枅を撮った一枚ですが、このような施設の存在は全く知りませんでした。サイフォン原理を利用した一種の水道施設で今でも現役で園内の池などに給水しているんですね。次に訪れた際には是非見てみたいと思います。

「論説と話題」では8月25日に行われた第67回九州学校保健学会、9月7日に行われた全国医師会共同利用施設総会の模様について報告していただきました。

「医療トピックス」は、がん疼痛に対して使用する鎮痛薬のオピオイドスイッチングについて解説していただきました。緩和ケア病棟を持つ施設も多くなり、転院・受け入れ時の鎮痛薬の用量調節を考慮する際に参考になりますね。

「学術」では今村総合病院の脇田先生から、“DOACを用いた脳梗塞二次予防症例161例の検討”と題して御報告いただきました。

した。DOACは、ワーファリンに比べて出血等の副作用が少なく、食事制限や定期的な凝固系のチェックによる用量調整が不要なため、心房細動に対する抗血栓療法として広く普及してきていますが、予防効果に加え、症例患者の状態に応じて、数種類ある製剤の選択・用量設定についてまで考察していただき、大変参考になりました。

「随筆・その他」では古庄先生からスペイン、モナコ、ホンジュラスの医学関連の切手を3点供覧していただきました。林先生からは“鶴丸城御楼門 瓦記名会に応募して”と題して、鶴丸城・御楼門の歴史から、先生の七高～大学時代の思い出を寄せていただきました。小田原先生からは“息子からのメール”、“医師法第21条と東京都立広尾病院事件最高裁判決”の2題をご寄稿いただきました。リレー随筆は池畑先生からの“カットモデルを通して”。おそらくはほとんどの先生方にとって未知の領域の話であろう貴重な体験談を軽妙な文章で綴っていただき、楽しく読ませていただきました。

「鹿市医郷壇」今月号の題吟は「結婚式(ごぜんけ)」でした。いつもひねりのきいた楽しい作品の御投稿ありがとうございます。

9月20日に開幕して各地で熱戦が繰り上げられているラグビーワールドカップ日本大会。前回の日本代表の活躍と開催直前まで放映されていたテレビドラマの影響もあってか、大盛り上がりですね。我が日本代表は開幕戦でロシア、さらには近年最強の出来といわれていた優勝候補のアイルランドも撃破し、予選突破をぐっと引き寄せました。もし全勝で一位通過すればベスト8どころかベスト4も射程内になります。やはり最終戦のスコットランドがカギになりそうですね。全力で応援したいと思います。

(編集委員 寺口 博幸)